



私は今後新たに決意を持って進んでいきます。
発信していきます。「日本が危ない」から。

平成 21 年 9 月 14 日 故 中川昭一(元金融相)

北海道 11 区選挙区の皆様へ

手紙の上段に掲げたのは故 中川昭一先生が公式サイト (www.nakagawa-shoichi.jp) に残した最後の言葉です。先生の名誉のために配っています。

多くの方には G7 後の朦朧会見ばかりが印象に残っているかもしれませんが、しかし、先生は、拉致問題や経済政策で確かな実績を残されているのです。先生の実績を選挙区の皆様に少しでも伝えたい。

■ 拉致問題：北朝鮮の監視役から家族を切り離す



2002 年 10 月 15 日、北朝鮮による拉致被害者のうち 5 人の帰国が実現しました (写真左、出所：共同通信社)。中川氏が会長を務めていた拉致議連のメンバーが、羽田空港にて出迎えました。家族同士の再会を最優先する会長の指示で拉致議連のメンバーは家族の後ろに立ち、マスコミのカメラの前ででないようにしていました。

14 時 19 分、拉致家族らに乗せた飛行機が羽田空港に着陸。家族らは誘導され、マスコミ関係者と拉致議連の多くのメンバーと共にターミナルビルへ消えてゆきました。

「飛行機の中には誰か隠れているはずだ！」

確信していた中川会長は仕掛けました。同伴した拉致議連の西村眞吾前議員 (改革クラブ) にカメラを持ち、飛行機の外で待機するようにと指示したのです。果たして、滑走路から人が居なくなったのを待っていたかのように二人の男が出てきました。帰国した五人を連れ戻そうと密かに入国しようとした北朝鮮の政府役人です。

カメラのシャッターは切られ、二人の顔写真はマスコミ各社に配られました。こうして、監視役の二人の宿泊する銀座のホテルはマスコミに取り囲まれ、彼らは隠密行動の自由を失ったのです。中川会長は、北朝鮮の監視役と帰国した被害者を見事に切り離したのです。

参考資料：WILL2009 年 12 月号、西村眞吾前衆議院議員著「かけがえのない同志を失った」

■ 経済政策：IMF へ 1000 億ドル拠出で世界恐慌を回避

朦朧会見が取り沙汰された G7、何が行われていたかご存知でしたか？

あの日 (2009 年 2 月 14 日)、中川金融相は IMF (国際通貨基金、収支が悪化した国に融資を行う銀行のような機関) に最大 1000 億ドル (約 9 兆円) を拠出する取り決めに署名をしました。



ドミニク ストロスカーン IMF 専務理事 × 中川昭一 財政金融担当大臣

2008 年 9 月 15 日、米国の名門証券会社「リーマンブラザーズ」の破綻の影響で、世界は大不況に陥る寸前でした。影響の少ないといわれた日本でも、平均株価が 1.2 万円代から 7 千円を割り込むまでに急落。資金繰りが付かず破綻を宣言する国 (アイスランド、ウクライナ、ベラルーシ、ハンガリー、パキスタン (10 月 22 日時点)) ができました。救済を行う IMF からの融資総額の予想は 330 億ドルを超えてしまいました。

IMF すらも資金不足に陥っていました。無策のまま放置すれば、国家の連鎖的な破綻が続き、大不況以上の世界恐慌 (第二次世界大戦の引き金になった経済不況) の再来になっていたことでしょう。日本はこのとき交渉材料として、政府保有の外貨 1 兆ドルをチラつかせ、IMF へ詰め寄ったのです。

10 月 10 日 G7 金融サミットにて「IMF の融資先から G7 (先進国) を対象外とすること」「強行的な介入手法を見直すこと」を条件に融資すると中川財政金融担当大臣は迫りました。翌月の 15 日「金融・世界経済に関する首脳会合宣言」が採択されました。日本の主導の元に世界が一致して行動することが決められたのです。

IMF へ 1000 億ドル融資の調印が行われたのは翌年 2 月 14 日のことです (写真上)。

参考資料：G20 サミットの舞台裏, <http://www.youtube.com/watch?v=Bb4YROZJcow>

■ 最後に

テレビや新聞には決して報じられない故中川昭一前議員の実績を 2 件とりあげました。

私達はこのような日本人の名誉や尊厳に関わる情報を日々集積、インターネットで無料公開しています。

組織や団体に縛られない非営利かつ日本人のための活動です。

国民が知らない反日の実態